

# 互いの研究内容理解



## 弘大理工学研究科と函館高専 交流協定で初シンポ

弘 前

弘前大学理工学研究科(加藤博雄研究科長)と函館工業高等学校(但野茂校長)の学術交流協定締結を記念する初のシンポジウムが17日、弘前大学で開かれた。協定締結に携わった前研究科長の宮永崇史同大学理工学部数物科学科教授による基調講演が行われた他、両校の教員が各自の研究内容を紹介。学生や両校関係者ら約100人が聴講し、各研究分野への理解を深めた。(船越太郎)

協定は昨年3月に締結。北海道新幹線開業を機に、両校の学術交流を深めようと協定を結んだ。

シンポジウムでは加藤研究科長と但野校長に続き、同高専土木工

宮永教授(左)の基調講演などが行われたシンポジウム

基調講演の演題は「北の時代到来の予感

北海道新幹線開業と東北放射光計画。宮永教授は両自治体の人口減少対策として加工・製造・情報産業分野での雇用創出の必要性を強調し、理工系を中心とする同協定への期待は大きい」と説明。自身の研究内容についても解説した。

このほか、両校の教授ら4人が各自の研究内容を紹介。シンポジウム後には情報交換会が開かれた。

※この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科  
E-mail:r\_koho@hirosaki-u.ac.jp